

## 残薬解消プロジェクト、残薬以外の場面でも貢献

### 時事 解説

残薬に関する調剤薬局での取り組みがこれまでも増して活発になってきた。アインファーマシーズは残薬対応強化に向けたリーフレットを作成。薬剤師がリーフレットを用いて説明を行うことで、患者がより相談しやすい環境を提供し、薬の整理の支援を行う。横浜のグローバルコーポレーションは各店舗に「残薬ボックス」を設置。同社の薬局だけでなく、ほかの薬局や医療機関で投薬された薬も含め、残薬を無償で回収している。

こうした流れの中、独自のユニークな取り組みを行う企業の一つが栃木県のフレンドだ。同社は7月から「残薬解消プロジェクト」を開始した。

同社の調剤薬局事業部の薬剤師と在宅介護事業部のケアマネジャー（介護支援専門員）が連携しているのが特徴で、訪問対象は同社の在宅サービスを受けていない高齢者。ケアプランの見直しや日々の状態確認などで定期的に高齢者宅を訪問しているケアマネに薬剤師が同行し、残薬の整理や飲み忘れ対策などを講じている。

薬剤師が行くことによって、それまでケアマネやヘルパーが触らしてもくれなかった残薬も、「スムーズに出してくれる」（同社）という。残薬の中にはホコリをかぶっている薬、10年前に期限が切れている外用剤、変色している軟膏などもあった。また自分の薬と一緒に、飼い猫の薬も同じ所で保管していたケースもあったという。

同プロジェクトで薬剤師が患者に貢献できているのは残薬に関することだけではない。他の場面でも貢献している。

ある高齢者はある薬剤を飲み込めないうえ、少し溶かして飲んでいた。それでも「のどにひっかかって飲みにくい」と訴える。この薬剤はぬるま湯や温かめのお湯に溶かすとダメになってしまう特殊な剤形。簡易懸濁法などでも注意が必要な薬剤だ。薬剤師が「水で飲めば問題ない」と伝えたところ、「ひっかからずに飲めた」と感謝されたという。この高齢者は多くの薬を服用しており、「一緒に飲むなら水で」という説明も受けていたが、薬剤が大きいと、「溶かした方が飲みやすいのでは」と独自の判断で白湯で飲んでいただけという。

また別の高齢者はたまたま風邪をひいて風邪薬を飲んでおり、薬が増えたため、これまで継続して飲んできた骨粗鬆症の薬を独自の判断でやめたと話す。しかも、やめてから、肩の調子も良くなったという。他の鎮痛剤を服用していなかったため、薬剤師は風邪薬の総合感冒薬で痛みが一時的に改善されているだけの可能性があることを伝え、骨粗鬆症薬の服用再開を促した。

〈次頁へ続く〉

医療費の削減、治療効果や安全性の向上などさまざまな観点から求められる残薬問題の解消。この残薬の問題に積極的に取り組めば、それをきっかけに、残薬以外のことでも、薬剤師が患者に貢献できる場面が生まれることもある。高齢の患者を相手に残薬の解消を図ることはなかなか難しい側面もあるが、残薬問題に能動的に取り組むことは薬剤師にとっても得られるものが多いはず。高齢者が増えつつある今、残薬問題への対応にはこれまで以上に本腰を入れて取り組みたい。（星 光洋）

## ■ファーマライズ、ヒグチ、ファミマ

### 合弁会社による新業態展開で最終契約締結

ファーマライズホールディングス（HD）、ヒグチ産業（大阪府東大阪市）、ファミリーマートの3社は18日、コンビニエンスストアと調剤薬局、ドラッグストアを融合した新業態を合弁会社を通じて展開する最終契約を結んだと発表した。薬剤師や登録販売者など約1000人の人材交流のほか、それぞれの持つ事業ノウハウや情報も融合し、収益性の高い事業を展開する。

合弁会社の名称は「薬ヒグチ&ファーマライズ」で、本社は東京都中野区に置く。社長にはファーマライズHDの大野利美知社長が就く。資本金は9000万円。ヒグチ産業の全額出資会社で損害保険代理業の徳庵商事（東京都中野区）を受け皿会社としてヒグチのドラッグストア事業を承継。その上で、徳庵商事が実施する第三者割当による自己株式の処分をファーマライズHDとファミリーマートが引き受けることで徳庵商事を合弁会社化する。自己株式の処分は10月1日の予定。

出資比率はファーマライズHD55.1%、ヒグチ産業30.0%、ファミリーマート14.9%で、ファーマライズHDの連結子会社となる予定。ファーマライズから取締役4人、ファミリーマートから取締役1人を派遣する。同社はファミリーマートから商品の供給を受ける予定。

ヒグチの2015年3月期のドラッグストア事業の業績は売上高が89億100万円、営業損益は3億5200万円の赤字だった。

## ■クオール

### 7月の調剤報酬5.9%増、枚数は0.6%増に

クオールが17日更新したマンスリーレポートによると、同社単体の7月の調剤報酬は前年同月比5.9%増となった。同月の処方箋応需枚数は0.6%増。積極的なスクラップ&ビルドによる閉店のほか、今期は大型の新店舗が前期より減少していることによる影響を受けているが、既存店が2桁伸長したことでプラスを確保した。

今期（2016年3月期）の累計は調剤報酬が前年同期比5.9%増、枚数が1.0%増となった。